

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):教育心理コース3年

参加プログラム:NTU Summer plus academy C1 course 派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) 3.公務員 4.非営利団体

⑤.民間企業(業界:未定) 6.起業 7.その他()

派遣先大学の概要

台北市内にある国立大学。台湾で一番大きい。キャンパス、寮ともに最寄駅は MRT の公館駅。

参加した動機

中国語を初級から学習でき、さらに字は大陸で用いられる簡体字ではなく、繁体字であり、個人的に繁体字で学びかけたこともあり参加を希望しました。また、私的ですが、親戚が台湾におり、安心感があったため。

参加の準備

① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど)

顔写真のアップロードなどインターネット上の手続きがいくつかあるので、余裕をもって手続きをしたほうがいいです。また、メールでの連絡が主になるので、頻繁に確認したほうがいいです。

② ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど)

日本国籍を持っていれば 90 日間ならビザは不要です。

③ 医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等)

間に合わなかったので予防接種できませんでしたが、余裕があれば(2 週間ほど)A 型肝炎の予防接種が推奨されます。しかし都市部であれば日本と危険度は変わらないそうです。

④ 保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等)

大学で入るよう指示されたもののみ入りました。

⑤ 留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して)

試験にかぶらず、また単位申請もしなかったのが特にありませんでした。留学申請の際に支援課・コース主任の先生と相談しました。

⑥ 語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等)

IELTS を受験していて 6.5 程度で、中国語はピンインが読める程度でした。

⑦ 日本から持参した方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど

蚊が多いので虫よけは必要です。日焼けも対策もあるといいです。夏でとても暑いですが、長ズボンがあると 2day-trip の際に便利です。また、最終日前日あたりに farewell party があり、semi-formal 以上の服装が推奨されます。

学習・研究について

① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等)

到着の翌日、クラス分け試験があります。基本的に午前は exploring Taiwan course 午後は Chinese language です。(午前の授業はたまにないです)中国語の授業は一クラス 6-8 人で基本的に毎日宿題があり、授業中の発表なども多いです。出席・宿題・小テスト・中間テスト・期末テスト・最終プレゼンで成績評価のようです。初級以外のクラスは英語で教えてくれますが、中級以上ですと中国語のみになるようです。Exploring Taiwan では S4 というほかのプログラムの学生とともに作る movie・個人レポート(英語あるいは中国語)で成績評価をします。

② 学習・研究面でのアドバイス

平日のよりに台湾大学の学生が寮で tutor station を開いてくれていて、発音をはじめ細かなサポートを受けられます。学習だけでなく、交流のためにも行くと面白いです。

③ 語学面での苦労・アドバイス等

私は中国語がほぼ未習だったので困りませんでしたが、簡体字に慣れている方は、繁体字になじみがなく、授業は基本的に繁体字であることもあって、苦労しているようでした。

生活について

① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など)

寮は教室から歩いて 15 分くらいで、1 人部屋です。シャワートイレ冷蔵庫クーラーもあり、有線 LAN もあります。Wifi はロビーでしか使えません。近くにコンビニや飲食店が多く、スーパー、ドラッグストアも歩いて 15 分以内にあり便利です。初めに 100 元 deposit としてとられますが、汚さなければ最終日に返してもらえます。電気代は 700 元分使い放題で、余ります。洗濯機・乾燥機・簡易キッチンが共用です。

② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)

食事は基本的に自分で用意します。オリエンテーリングの日や trip のとき、farewell party や cultural night などのイベントの日には出ます。大学まで徒歩で移動が主です。大学近くには、共用自転車(Youbike)MRT の駅、バス停があり交通の便はいいです。お金は現金のみでした。大学の近くの銀行でも両替はできますが、手数料が高いので、到着後に空港で両替するのがいいと思います。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

寮の近くに夜市があるということにぎやかですが、現地の方にうかがうと治安はいいほうだそうです。寮から歩いて3分くらいに警察署、5分くらいに夜間救急もやっている病院があります。大学の病院へ行く際も、頼めば student advisor の方が付いてきてくださるそうです。辛いものや油っぽいものがどうしても食べ物では多いので、胃が弱い場合には胃薬があるといいかもしれません。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

大学を通して申し込んだことで、授業料・申込料は免除でした。教科書代、寮の費用、プログラムのイベント代(観光や2day-trip など)、イベント時の交通費・旅行保険こみで20万円程度でした。航空券は3万6千円(trans asia)でした。その他食事代などは4万円~6万円です。私はお土産をたくさん買ったり、豪遊したりしたために食事代や娯楽費で10万円ほど使いました。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大のもの

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

週末は、同じプログラムのひとと台北の外へ観光にいきました。平日の夜も遊ぶことが多かったです。寮にランニングマシン・サイクリングマシンがあり、運動しているひともいました。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

平日の夜は tutor station が開かれていて、主に語学学習のサポートが受けられます。また、プログラム期間中は student advisor も同じ寮にいますので、困ったことがあればすぐに頼れる状態でした。

② 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館、スポーツジムは配布される学生証をもっていけば自由に使えます。食堂もメニューが充実しており、安かったです。大学構内は wifi があり、寮でもロビーでは使えます。しかし、中国語の授業が行われる教室では wifi は通じませんでした。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

日本人も多く、日本語が話せる student advisor もいますが、それでもやはり英語を使う機会があり、英語を学ぶのは違いますが、英語を使用することへのためらいはだいぶなくなるような一か月でした。また、中国語のリスニングやスピーキングは本当に伸びたように思います。少人数制で毎日勉強する、サポートも手厚いという語学学習に適した環境は、めったにないもので、ありがたかったです。学習面の成長もありますが、毎日4時には授業が終わっていたこともあり、人付き合いや異文化交流もできたこと、台湾観光を通して文化を感じられたことは、未知の世界にふれ考えの枠を広げるうえでとても役立ちました。なによりも、楽しかったです。

② 参加後の予定

中国語は今後も独学であれ授業であれやっていきたいと思っています。

③ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

中国語がある程度できたところまでいったほうがより楽しめるプログラムに感じました。日本から近い国である台湾の置かれている微妙な立ち位置を知るきっかけにもなりますし、ふつうに楽しいプログラムでもありますし、私はとても満足しました！

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

NTU summer Plus academy の facebook

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。

東京大学での所属学部/研究科・学年(プログラム開始時):大学院公共政策学教育部法政策コース1年

参加プログラム: 派遣先大学:国立台湾大学

卒業・修了後の就職(希望)先: 1.研究職 2.専門職(医師・法曹・会計士等) ③.公務員 4.非営利団体

5.民間企業(業界:) 6.起業 7.その他()

<p>派遣先大学の概要 国立台湾大学。台湾随一の名門大学。台北市にキャンパスがあり、学生数も非常に多い。</p>
<p>参加した動機 ・中国語力の向上 ・中国大陸、香港にはいったことがあったので、台湾にも行ってみたいかった ・海外大学の学生との交流</p>
<p>参加の準備 ① プログラムの参加手続き(手続きにあたってのアドバイスなど) ホームページでの登録がややわかりにくい。また、学生証用に写真を送る必要がある。 ②ビザの手続き(ビザの種類、申請先、手続きに要した時間、ビザ申請にあたってのアドバイスなど) なし。 ③医療関係の準備(出発前の健康診断、予防接種等) 特になし。ただし、蚊にはよく刺されるので注意すること。 ④保険関係の準備(加入した海外旅行傷害保険・留学保険等) 大学指定の保険にのみ加入。 ⑤留学にあたって東京大学の所属学部・研究科で行った手続きなど(履修・単位・試験・論文提出等に関して) 公共政策での試験期間に留学期間がかぶったので、先生に相談し試験で成績認定する科目をレポート認定に変えてもらった。 ⑥語学関係の準備(出発前の英語レベル・語学学習等) 英語は TOEFL86、中国語は HSK4 級レベル(ただ、話す練習をしていなかったため英語も中国語も苦労した。留学未経験者は意識的に英会話の練習をしておいた方がよい) ⑦日本から持参の方がよいもの、その他出発前にやっておくべきこと・アドバイスなど 蚊にさされるので虫よけアイテムは必須。また、初日に語学のクラス分けテストがあるので、渡航前に準備をしておいたほうがよい。</p>
<p>学習・研究について ① プログラムの概要(授業・予習・復習のスタイル、印象に残っている内容等) 午前中は文化を学ぶプログラムやアクティビティ。午後は3時間ほどの語学の授業。レベル別に分かれ、レベル1以外のクラスはすべて中国語のみで授業が行われた。授業は教科書を進めていくスタイルで、作文や音読などの課題が課された。夜は台湾大学のチューターに質問できる自由な時間が設けられている。 ② 学習・研究面でのアドバイス 授業は充実しているが、授業以外の時間でも積極的にチューターの学生と会話をするなど、自分で勉強した方が環境をより活用できる。 ② 語学面での苦労・アドバイス等 第二外国語でやっていたレベルだとコミュニケーションレベルには足りない。私は単語帳やCD音源を持参して空き時間に勉強していた。</p>
<p>生活について ① 宿泊先(種類(寮・ホームステイ・ルームシェア等)、家賃、宿舎の様子、見つけた方法など) 宿泊先は大学指定の大学寮。場所は大学から徒歩15分ほどのところで、男女別棟だが共用ラウンジがある。部屋は個室、電気はカード式。洗濯はコインランドリー。夏休みなので台湾大学の学生は少ない。 ② 生活環境(気候、大学周辺の様子、交通機関、食事、お金の管理方法(海外送金・クレジットカード)など)</p>

日本と比べて一回り熱い。雨はあまり降らない。大学までは徒歩で通えるが、地下鉄に乗る際は学生証が交通 IC カードの役割も果たすので便利。寮では食事がでないが近所に屋台がたくさんあるので、そこで食べていた。

③ 危機管理関係(留学先の治安、医療機関の事情、心身の健康管理で気をつけた点など)

台北市は治安が良く、大学の周りも夜までにぎやかなので、あまり心配はしなかった。医療機関の受診はなし。屋台のものを食べても体調を崩すことはなかった。

④ 要した費用とその内訳(航空賃、授業料、教科書代、家賃、食費、交通費、娯楽費などの概算)

航空券はマイルでとった。授業料は 22 万円ほど。寮費や教科書代などプログラム中にかかる費用は参加費に含まれている。その他生活費として持参していったのは 4 万円ほど。

⑤ 奨学金(受給していた場合は、支給機関・支給額・見つけた方法など)

東大の認定学生としてプログラムに参加したので、費用の一部が免除になった。

⑥ 学習・研究以外の活動(スポーツ・文化活動、ボランティア・インターン、週末の過ごし方など)

チューターの学生やプログラム参加者の他の学生と遠くまで遊びに出かけることもあった。週末や授業後はかなり時間にゆとりがあるので、あらかじめ計画を立てておけばもっと充実した課外活動ができたと思う。

派遣先大学の環境について

① 参加学生へのサポート体制(語学面・学習面・生活面・精神面でのサポート等)

大学側からのサポートはそれほどないが、チューターの台湾大の学生がプログラムの活動、勉強など全般にわたって相談に乗ってくれる。

③ 大学の設備(図書館・スポーツ施設・食堂・PC 環境等)

図書館に 24 時間利用可能な自習室が併設されている。寮には簡易ジム(無料)、キャンパス内には大きなジム(有料だが安い)がある。大学内には PC ルームがある。

プログラムを振り返って

① プログラムの意義、参加を通じて成長したこと、その他留学を通じての所感

参加学生にカリフォルニアの学生が多い。7 月のプログラムには日本人の参加者は少ない。英語ネイティブが多く、参加者の英語レベルが全体的に高いので、中国語だけでなく英語もあらかじめ準備して参加するのがよい。

海外大学で学習すること自体初めてだったので、様々なバックグラウンドの学生とのコミュニケーションが新鮮だった(プログラム参加者には高校生もいた)。

プログラム中はずっと英語力の低さを痛感していた。リスニングとスピーキングをもっと磨こうと思った。台湾大の学生とはテンションが同じくらいだったが、アメリカの学生はハイテンションで最初は怖かった。

プログラムを通じて、中国語でのコミュニケーション能力、特にスピーキング力が向上した。また、これまで海外の学生と知り合う機会がなかったので、海外に友達ができたことも嬉しかった。

② 参加後の予定

中国語、英語ともに話すことに慣れることができたので、今後も大学の授業や台湾の友達と話すことで語学力を磨き続けたい。

④ 今後参加を考えている学生へのメッセージ・アドバイス

台湾は環境的に日本に近いですし治安もよく、食べ物もおいしいので、初めて海外に行く場合はお勧めの場所です。プログラム前は中国語だけを勉強していましたが、英語もやっておけばよかったですと思いました。一か月はあっという間にすぎるので、迷っているなら参加してみても損はないと思います。

その他

① 準備段階や留学中に役に立ったウェブサイト・出版物

台湾のガイドブック的な本が一冊あるとよい。

② その他東京大学のホームページ・出版物等に掲載してよい留学中の写真があれば添付してください。